

「わたしたちの生活と政治」(2)

指導目標	◎国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに、政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。
公共交通を教材とする利点	自分たちの普段の生活との関わりが理解しやすい叡山電鉄の踏切工事や四条通の歩道拡幅工事を題材とすることで、市の進めるまちづくりや事業と自分たちの生活との関わりを、深く理解することができる。
対象学年	6年生
対応教科	社会科
標準校時	28コマ
学習構成	<p>1. 叡山電鉄岩倉駅前の踏切の様子の変化から学習問題を考える</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 叡山電鉄岩倉駅前の以前の写真と現在の写真を比べ、踏切の変化に気づく。 <p>2. 1億円もかかる踏切工事はだれがどのようにして行ったのだろう</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の暮らしや安全を求める市民からの要望を聞き、その必要性を市役所が調べ、市議会で判断して、国民から集めた税金を使い、踏切工事が進められたことを知る。 <p>3. なぜ29億円もお金を使って四条通の工事を行ったのだろう</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四条通周辺の通りの写真から、歩道拡幅工事は、歩く人中心の京都らしいまちづくりを進めるための事業の一つとして行われたことを知る。 <p>4. 市が進めているまちづくりはよりよい方向なのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市は、市民の願いを取り入れながら、市民と一体となって、人が主役の魅力あるまちづくりを進めており、そのようなまちづくりは、市民の生活が良くなることにもつながることに気づく。 ・ 自分たちも市民の一員として、協力できることをすすんでやっていきたいと考える。

【学習指導案】

社会科学習指導案

指導者 後藤 文博

- 1 日 時 平 30 年 2 月 23 日 (金) 第 6 校時 (14 : 40～15 : 25)
- 2 学年・組 第 6 学年 2 組 (27 名)
- 3 場 所 6 年 2 組 教室
- 4 単 元 名 わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」
- 5 単元の目標
国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに、政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。
- 6 単元の評価規準
【社会的事象への関心・意欲・態度】
 - ①京都市のまちづくりを進める事業など、地方公共団体の政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとしている。
 - ②京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きと、京都市民の生活とのかかわりを考えようとしている。
【社会的な思考・判断・表現】
 - ①京都市のまちづくりを進める事業など、地方公共団体の政治の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
 - ②地方公共団体の政治が、国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え、適切に表現している。
【観察・資料活用の技能】
 - ①京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治の働きについて、資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。
【社会的事象についての知識・理解】
 - ①京都市市民の生活には、地方公共団体の政治が反映していることを理解している。
 - ②京都市のまちづくりを進める政治は、京都市民の生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

7 単元について

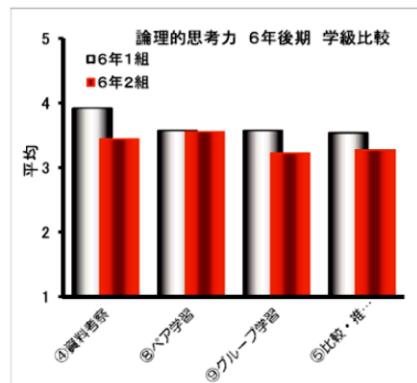
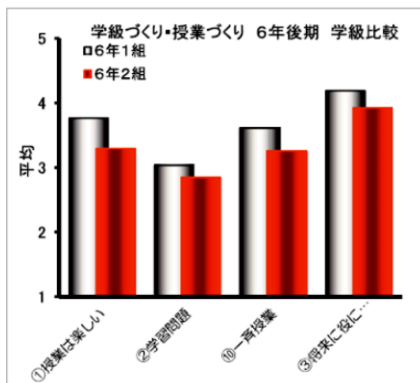
(1) 児童について

社会科の授業に対し、多くの児童は前向きに取り組むことができている。11月に実施した授業アンケートでは、以下のような結果が数値として表れた。

◇論理的思考力に関する児童意識調査の内容（アンケートの設問と回答の数値）

設問の内容		1	2	3	4	5
学級づくり	①授業そのもの	(楽しくない)	あまり楽しくない	どちらでもない	やや楽しい	(楽しい)
	②学習問題をつくること					
	⑩クラス全体で話し合い、深めること					
論理的思考力を高める場	③将来役に立つと思うか					
	④資料について考えること					
	⑧ペアで相談し合うこと					
	⑨グループで話し合い、深めること					
基礎学習	⑤比べたりまとめたりして考えること					
	⑥自分の考えを説明すること					
	⑦友達の考えを知ること					

◇児童の回答より



設問1「社会科の授業は楽しいか」という設問に対して、5段階で子ども達の意識を示したところ、「授業は楽しいか」との質問に対して学年平均で3.6ポイントと比較的に高いポイントを示している。また、設問3「将来の役に立っているか」と言う質問に対しても4ポイントを示しており、このことから学習に対してその意義を理解し、前向きに学習に取り組む姿勢があると言える。

しかしながら、設問2「学習問題をつくる楽しさ」は、2.9ポイントと低い。また資料考察や事象を比較・推論したりまとめたりすることに対しては比較的意欲は高いものの、自分の考えとして発表することに関しては3.6ポイントとやや低めの数値を表し、意欲の高い児童と低い児童の差もある。6月に実施したアンケートについても同じような傾向がみられていた。このようなアンケートの結果と児童の実態をふまえると、学習の意味を理解し前向きな児童が多い一方で、学習の内容を自分事として捉えて問題の解決を目指したり、それ

ぞれの意見を主張し合うことでより学習を深めようとしたりすることに関して、楽しみを感じることができていない児童がいることが課題である。社会科の学習を通してこれらの課題を克服していきたいと考える。

そこで本年度は、社会科の学習を以下のように進めている。

◆児童が主体的・対話的に学びを進めることをねらった学習展開

社会科の学習の中で児童の「主体的・対話的に深い学び」を育むために、児童が考えたくなる問いが生まれるであいを意識してきた。そして、問題解決的な学習の展開を常に意識しながら既習の知識や経験をもとに自分の考えをもち、対話的に表現する活動を多く取り入れてきた。「縄文のむらから古墳のくにへ」の単元では、弥生時代までの学習のまとめとして、児童に「自分が生活するとすれば縄文時代と弥生時代のどちらがよいか」という問いに対して話し合う活動を取り入れた。そこでは、これまでの学習から分かった事実をつなげて考えたり、それぞれの時代の事象を比べたりしながら自分の意見や論を構築し、話し合うことができた。児童は、これまでに学習したことをもとに、相手意識をもって伝え合い、それぞれ時代の良さや課題をより深くとらえることができた。全ての単元で取り入れていくことは難しいかもしれないが、児童の思考の流れを大切にしつつ、このような学習から分かった事実をつなげて考えたり、それぞれの時代の事象を比べたりしながら自分の意見や論を構築する活動を積極的に取り入れていきたい。

◆つなげて思考することを意識した資料

年表や文書資料など資料を読み取ることや歴史的な事象に対する自分の考えを書き表すことを重点的に取り組んできた。5年生の社会科では、写真資料やグラフなどの内容や数値から分かることや考えられることにまで思考を働かせることができたものの、6年生の歴史学習では年表や人物が残した言葉の資料が多く、読み取った内容からその当時の様子や人物の思いなどを考えることが難しい様子であった。そこで授業ではなるべく文章資料と視覚的にとらえやすい想像図を織り交ぜて提示したり、論理的につなげて考えられるように、板書で資料と資料とのつながりを視覚的にとらえて思考できるように工夫したりしている。

◆思考したことを表現する場面の充実

歴史的な事象に対する考えについては、毎時間の授業で学習した出来事や人物の取組などに対して、自分はどう考えるかについて書く時間を設定し、自分事として捉えさせている。そして、対立する考えなどを取り上げて話し合ったり、複数の歴史人物の中から議題（例えば、「この時代にもっとも影響を与えた人物は誰？」など）に対して最も適していると考えられる人物を選択し、その根拠を伝え合ったりする場面を設定し、多様な考えをもつことの面白さを伝えるようにしている。

以上の観点に着目して、課題克服のために、引き続き社会科の指導を行っていきたい。

【単元構想】

(2) 主体的な学びをつくる単元構想

単元構想図 わたしたちの生活と政治「わたしたちの願いを実現する政治」(全6時間)

であう・つかむ(1時間)

① 叡山電鉄岩倉駅前の踏切の様子の変化から学習問題を考える

岩倉駅の様子の変化

- ・前までは踏切の幅が狭く歩きにくい
- ・車と歩行者の距離が近く危険だ
- ・見通しが悪い
- ・比べてみると全然違うな

- ・今では踏切の幅が広がり歩きやすくなった
- ・見通しもよくなり安全だ
- ・歩道が広がっていることがわかる
- ・歩行者も車も安心して通行できる
- ・踏切の工事に1億円ものお金がかかったのだ

1億円もかかる岩倉駅の踏切の工事は、だれがどのようにして行ったのだろう

誰が踏切をかえようとしたのだろう②

どのようにして踏切の工事が行われたのだろう③

費用はどのようにして集められたのだろう④

調べる(3時間)

② 誰が踏切をかえようとしたのだろう

- ・岩倉の地域の自治連合会が地域の安全のためにかえようとしたのだ
- ・自治連合会は3つの地域が集まっている
- ・話し合いがあり、要望書が作られている
- ・安馬会長たちの働きかけがあり区に要望書が出されたのだ
- ・地域の方々の声を受け、何年も要望を続けていたのだ
- ・要望はどのようにして実現されたのだろう③

③ 要望に対して工事はどのようにして行われたのだろう

④ 1億円の費用はどのようにして集められているのだろう

- ・要望を受けた区役所は、市役所に連絡し、市役所が本当に必要なかどうかを判断するために通行量や危険性などを調べ、改善に向けた計画案をつくっている
- ・予算案を作り市議会に提出している
- ・予算には1億円の費用が計上されている④
- ・1億円の費用は、集められた税金を利用することになる
- ・市議会では選挙で選ばれた代表の人たちが話し合っている
- ・たくさんの地域から多くの要望が出されてきている
- ・みんなの税金を使うので慎重に話し合いを進めている
- ・踏切の工事は、計画案や予算案を元に決められた

地域の暮らしや安全を求める市民からの要望を聞き、それが必要かどうかを市役所が調べ、市議会で判断して、国民から集めた税金を使いみんなの願いを実現する政治の働きがあった。

- ・29億円も使って、なぜ四条通りの道路の工事を行ったのだろう⑤

⑤なぜ29億円もお金を使って、四条通りの工事を行ったのだろう

四条通周辺の通りの写真

- ・四条通り周辺には小さな通りがあり、京都らしい風景を守るため
- ・京都らしい町を維持するためには、歩く人を優先したから
- ・歩道拡幅工事は、歩く人中心の京都らしいまちづくりを進めるための一つとして行われた
- ・歩く人や公共交通を優先した待ちづくりのためだが、反対する声も多くあったようだ。
- ・京都市が税金を使って進めているまちづくりはみんなにとってよい方向なのだろうか⑥

⑥京都市が進めているまちづくりはよりよい方向なのだろうか

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・京都らしさを守るためにはよい ・観光都市としての魅力があり栄える ・歩く人・子育てをする人にとって優しい ・便利とは言えないが、人を大切にするよさがある | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む人にとってはくらしにくく、税金の使い道としては課題がある ・他都市に比べ、発展に遅れが出てくる ・体が不自由な人にとっては、車も必要な時もある |
|---|---|

京都市の行政は、京都市民の願いを取り入れながら、市民と一体となって、人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは、わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。まちづくりには課題もあるがわたしたちも、京都市民の一員として、協力できることをすすんでやっていきたい。

(3) 論理的思考力を働かせる場づくり

①学ぶ意欲を高める工夫

単元の「であう」の場面では、叡山電鉄岩倉駅の踏切の過去の写真と現在の写真を比較することで、その変化について関心をもち、そこからどのようにして工事が行われていったかについて疑問をもつことが考えられる。またその工事には1億円もの費用が使われた事実にああ中で、工事が行われることになったきっかけや要望を出した人物などに疑問が生じると考えた。そして自分たちの地域に1億円もの費用が使われることで、費用の出所についても問題意識が生まれると考えた。このように身近な地域の岩倉駅の踏切の変化や費用の大きさを見せることで児童が考えたいくなる問いが生まれると考える。

その上で、四条通の歩道拡幅工事の事例を取り上げる。岩倉駅の踏切拡幅工事と比べてみても、29億円という予算が計上されて歩道拡幅工事が行われる事実を知った児童達は、四条通の歩道拡幅工事に、これほどの予算が使われることに疑問をもつであろう。

②単元で働かせたい論理的思考力とは

本単元において働かせたい論理的思考力として、問題解決や課題解決に向かってこれまでに調べて分かった事実をつなげて考えたり、歴史学習の終末で学んだ京都市のまちのよさや魅力と重ね合わせたりしながら考える力を育んでいきたいと考える。本単元では調べて分かったことをもとに、京都市の政治の仕組みやまちづくりのねらいが、自分たちの生活や市民の願いとどのようにつながっているかという視点で考えられるようにしていく。そのようなねらいで単元を展開していく子ども達が論理的思考力を働かせながら、京都市のまちづくり取組には歴史があることや京都市が大切にしてきた京都らしさを守るため、四条通の歩道拡幅工事が、京都市のまちづくりの一端として行われていることをとらえることができるようにする。そして、歩くことや公共交通中心のまちづくりと自分の生活とのかかわりについて論理的思考を働かせて考えていこうとする姿を目指す。

(4) 焦点化指導の充実

焦点化指導の充実として、1つ目は教材とのあいも大切にしていきたい。児童の一人一人が「なぜ」や「どうして」と思えるような導入の資料を準備して、問題意識が高まった状態で学習をスタートしていきたい。単元の導入はもちろん、毎時間の追究活動の導入部分においても、具体的で分かりやすい事実の提示、比較によって生まれるギャップなどを生かした問題づくりを行い、焦点化児童がしっかりと自分の問いとして学習問題をとらえることで、主体的な学びにつなげていくことができると考える。2つ目は児童一人一人が活躍することのできる学習形態を工夫したい。日々の授業の様子を見ると、自分の意見を相手に伝えることに自信をもてていない児童が多い。授業中、自分の意見を発表できていない理由として、「全体の場で発表する人数が多くて発表の機会を逃してしまう」という様子が見られた。積極的に発表できる児童が先に発表をすることで、発言する児童に偏りが見られ、話し合い活動の時間が受動的な学びの時間になっている児童も少なくない。少しでも、一人一人の児童が思考して発言する場面を保障し、友だちとの意見のやりとりをすることができるように、ペアやグループでの活動を取り入れていきたい。他の児童との交流の時間を設けることで、様々な見方や考え方を知り、自分の考えと繋げられるようにしていきたい。そうすることで全体の場においても自分の意見を自信をもって交流出来るのではないかと考える。

8 単元の指導と評価の計画 (全6時間 本時5/6)

過程	目標 (○数字…時)	主な学習活動 ○発問 ◇指示 ・児童の反応 論論理的思考力を働かせる場	指導・評価 □支援 資料 【】評価 論論理的思考力の見取り
であう・つかむ	①叡山電鉄岩倉駅前踏切の変化を調べ学習問題を作る。	◇2枚の写真から踏切の変化を調べよう。 ・前までは踏切の幅が狭く歩行者が歩きにくかった。 ・今では踏切の幅が広がり歩きやすくなった。 ・見通しもよくなり安全だ。 ・特に歩道が広がっていることがわかる。 ・比べてみると全然違うな。 ・中学生になった時に毎日通るので安心	□叡山電鉄岩倉駅前の以前の写真と現在の写真を比べる。 □比べて気付いたことを違いを元に発表できるようにする。
		<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1億円もかかる岩倉駅の踏切の工事は、だれがどのようにして行ったのだろう</div> ・誰が踏切の幅を広げてほしいと言っただろう。② ・どのようにして踏切の工事が行われたのだろう。③④⑤ ・費用はどのように集められたのだろう。④	□学習問題について調べる内容を考える。 【関心・意欲・態度①】 【思考・判断・表現①】 叡山電鉄岩倉駅前の踏切の変化に関心を持って調べ学習問題を作ることが出来る。 (発言・ノート)

調べる	<p>②叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰の願いでかえることになったのか資料から読み取ることが出来る。</p>	<p>○叡山電鉄岩倉駅前の踏切は誰のどのような思いでかえることになったのか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏切の前は中学校があるので中学生の保護者からの要望かな。 ・区役所が危ないと思ったのではないかな。 ・生徒が自ら要望したのかな。 ・地域の人たちみんなの願いがあったのではないかな。 <p>○次のことから分かることはあるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉には地域の人たちの声を聞いて、まとめる自治連合会があるのだな。 ・地域から出た要望は、要望書にまとめられ区役所に出されているのだな。 ・一回ではなく何度も出されているのだな。 	<p>□前時の踏切の写真を提示して考える。</p> <p>□岩倉自治連合会連絡協議会の<u>要望書</u>を読む。</p> <p>□安馬会長の<u>言葉</u>を提示する。</p> <p>【知識・理解①】 叡山電鉄岩倉駅前の踏切工事は、問題点があったことや、市民からの要望を実現しようとして行われたことを理解している。(発言・ノート)</p> <p>□要望を受けた区役所から要望が叶うまでの経緯を予想するように声かけをする。</p> <p>□<u>区役所の方の話</u>を文章で確認する。</p> <p>□<u>市役所の方の話</u>を文章で確認する。</p> <p>【技能①】 区役所や市役所で拡幅工事が決まってきた経緯を、資料をから活用して、必要な情報を集めて読み取っている。 (発言・ノート)</p>
	<p>③区役所や市役所では、要望に対してどのようなことをするのか関係についてまとめる。</p>	<p>○要望を受けた区役所はどのようなことをしたのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要望を受けて、本当にどうか見に行っているのではないかな。 ・他の要望とも、比べたりしているのではないかな。 ・調べた結果、良ければお金を出してくれるのではないかな。 <p>○次の資料を見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所は要望を聞き、返答をする窓口をしているのだな。 ・市役所は、要望に対して必要かどうかをある程度判断し、計画と予算案を市会に提出しているのだな。 ・予算案を作り市会に提出している。予算には1億円の費用が計上されている④ 	

<p>④ 1億円の費用はどのように用意されるのか調べる。</p>	<p>○踏切を広くするための1億円もの費用はどこから出るのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市内のことなので市のお金が使われていると思う。 ・府道とかかかっているの、府のお金かもしれない。 <p>○工事のお金がどこから来るのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事には市の予算や国の予算からお金が出された。 ・しかしそのお金の元はわたしたちの税金だ。 ・みんなの税金だから、本当に必要かどうか大切に判断しなければならない。 <p>○市議会の議事録を確認してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市議会は市民から選挙で選ばれた代表の人たちが話合っている。 ・たくさんの地域から多くの要望が出されてきている。 ・みんなの税金を使うので慎重に話し合いを進めている。 ・踏切の改善は、計画案や予算案を元に決められた。 	<p>□ 1億円という金額の大きさを想起する。</p> <p>□ <u>市の予算や国の予算と税金との関わり</u>について調べる。</p> <p>【関心・意欲・態度②】 1億円の費用はどのように用意されるのか調べ、税金の使い方と自分たちの生活との関わりについて理解する。 (発言・ノート)</p>
<p>地域の暮らしや安全を求める市民からの要望を聞き、それが必要かどうかを市役所が調べ、市議会で判断して、国民から集めた税金を使いみんなの願いを実現する政治の働きがあった。</p>		

<p>まとめ、向き合う</p>	<p>⑤四条通の歩道拡幅工事を行った目的を話し合い、京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考える。</p> <p>本時</p>	<p>○29億円のお金を使ってまで、京都市が四条通の歩道拡幅工事を行ったのは、なぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四条通の1つ北の通りには、錦市場があり、南の通りには京都市らしい町家が多く、観光客も多い。 ・自動車が通ると、観光客の人にも迷惑だし、京都のまちの良さが伝わらないと思う。 ・京都市はこれまでも、まちづくりに関する多くのきまりを作っている。 ・歩くことを中心にすることによって京都のまちの魅力を生かすまち京都憲章では、人が主役の魅力あるまちづくりをしようということが伝わってくる。 ・京都市のまちづくりは、行政だけでなく、わたしたち市民も協力していくことで進められていくと思った。 	<p>□<u>四条通周辺の通り</u>の様子から、四条通周辺の通りはせまいことや、錦市場など京都市らしいまち並みが広がっていることをとらえることができるようにする。</p> <p>□<u>京都市のまちづくりの取組</u>から、歩道拡幅工事以前から、京都市の行政がまちづくりに関する取組を進めていることに気づくことができるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現②】 四条通りの歩道拡幅工事を行った目的をとらえたうえで、京都市の進めるまちづくりの取組の意味について考え、表現している。 (発言・ノート)</p>
	<p>⑥京都市が進めているまちづくりの成果や課題について考える。</p>	<p>○京都市が進めているまちづくりは良い方向といえるのだろうか。</p> <p>良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・京都らしきを守るためにはよい ・観光都市としての魅力があり栄える ・歩く人・子育てをする人にとって優しい ・便利とは言えないが、人を大切にするよさがある <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む人にとってはくらしにくく、税金の使い道としては課題がある ・他都市に比べ、発展が遅れが出てくる ・体が不自由な人にとっては、車も必要な時もある 	<p>□これまでに学習した<u>京都市の取組</u>や<u>地域住民からの反対の事例</u>から意見を述べられるようにする。</p> <p>【知識・理解②】 京都市のまちづくりを進める地方公共団体の政治は、京都市民の生活の安定と向上を図るための大切な働きをしていることを理解している。(発言・ノート)</p>
<p>京都市の行政は、京都市民の願いを取り入れながら、市民と一体となって、人が主役の魅力ある京都のまちづくりを進めている。そのようなまちづくりを進めていくことは、わたしたち京都市民の生活がよくなっていくことにもつながる。まちづくりには課題もあるがわたしたちも、京都市民の一員として、協力できることをすすんでやっていきたい。</p>			

【板書計画】

